



平成 28 年 6 月 15 日

各 位

会 社 名 ペプチドリーム株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 窪田 規一
(コード番号：4587 東証第一部)
問い合わせ先 取締役経営管理部長 関根 喜之
電 話 番 号 (03) 3485-7707 (代表)

ペプチドリーム株式会社と米国ブリistol・マイヤーズ スクイブ社との
共同研究開発プロジェクトから見出された特殊環状ペプチドの
臨床試験開始のお知らせ

ペプチドリーム株式会社（代表取締役社長：窪田 規一、本社：東京都目黒区、東証一部）と米国ブリistol・マイヤーズ スクイブ社（以下「BMS」といいます。）は、これまで当社独自の創薬開発プラットフォームシステム：PDPS（Peptide Discovery Platform System）を用いた共同研究を進めておりましたが、このたび当社との共同研究から見出された特殊環状ペプチドが臨床試験に入りましたので、お知らせいたします。当社の共同研究開発契約及び自社創薬の全プロジェクト通じて、はじめて当社において臨床試験に進むプロジェクトが発生したことになります。

当該臨床入り化合物に関して共同研究開発契約にあらかじめ設定されているマイルストーンフィーが当社に支払われます。また、今後の開発の進捗に応じたマイルストーンフィー及び上市後の売上高に応じたロイヤルティを受領する権利を有しています。なお、本件の業績に与える影響に関しては、平成28年6月3日公表の「平成28年度6月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」における「今回修正予想」数値に含めて計上しております。

【ペプチドリーム株式会社 代表取締役社長 窪田 規一のコメント】

「本日、当社とBMS社の共同研究から見出された特殊環状ペプチドが臨床入りすることについて報告できることを大変喜ばしく思っています。このたびの臨床入りは当社のPDPSが生み出す特殊環状ペプチドが、タンパク-タンパク相互作用を阻害するモノクローナル抗体と置き換えられる（同様な作用を有する）という大変興味深いものであります。これにより世界中の病気で苦しんでいる患者さんの生活の質の改善につながることを望んでいます。」

過去6年間に、当社は多くの世界的製薬企業（米AMGEN社、英AstraZeneca社、米Bristol-Myers-Squibb社、米Genentech社、英GlaxoSmithKline社、仏IPSEN社、米Lilly社、米Merck社、スイスNOVARTIS社、仏Sanofi社、旭化成ファーマ株式会社、杏林製薬株式会社、塩野義製薬株式会社、第一三共株式会社、田辺三菱製薬株式会社、帝人ファーマ株式会社）との間で創薬共同研究開発契約を結び、戦略的共同研究開発を行ってきました。さらに、米Bristol-Myers-Squibb社、スイスNOVARTIS社及び米Lilly社に対しては、当社独自の創薬開発プラットフォームシステム：PDPS の非独占的なライセンス許諾（技術

ライセンス契約)を実施しております。

以 上

【ペプチドリーム株式会社について】

ペプチドリーム株式会社は、「日本発、世界初の新薬を創出し社会に貢献したい」という現社長窪田と現社外取締役菅（東京大学大学院教授）の共通の夢から、平成 18 年 7 月に設立されました。独自の創薬開発プラットフォームシステム：PDPS (Peptide Discovery Platform System) を用いて、極めて広範囲にわたる特殊ペプチドを多数（数兆種類）合成し、高速な評価を可能にすることで、創薬において重要なヒット化合物の創製、リード化合物の選択、並びにファーマコフォアの理解を極めて簡便に、かつ、効率的に行えるようにしました。ペプチドリーム株式会社は、特殊ペプチドを用いた創薬企業の世界的なリーダーとして世界中の病気で苦しんでいる人々に画期的新薬を提供することを使命として、研究開発に取り組んでおります。